

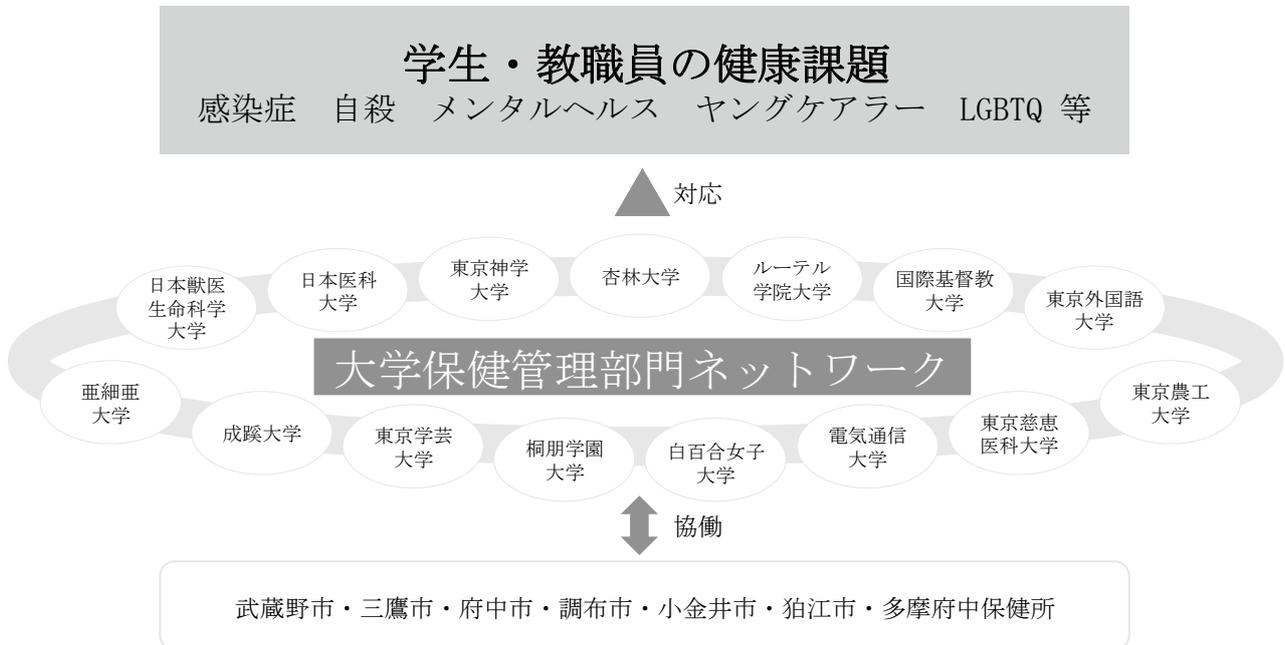
# 大学保健管理部門連携推進事業

北多摩南部保健医療圏

実施年度	開始 令和4年度 終了 令和4年度
背景	<p>新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、管内の大学においても集団発生が散見され、保健所が調査、助言を行い、対策を支援してきた。大学との関わりの中で、各大学の保健管理部門担当者が試行錯誤しながら感染症対策を実施している現状を把握するとともに、「学生の行動歴等を把握するのは困難。」「学生、職員は感染症対策について大学の指示待ち、大学が行うものという認識である。」等の大学側が感じている課題を聞くことができた。一方、保健所では、「大学の規模や有する学部の特徴等により、対応の工夫が必要であること。」や、「大学により組織体制が異なるため、保健管理部門での情報集約が難しい側面がある。」という現状があることを認識した。</p> <p>そこで、各大学で講じている感染対策や工夫点、学生や職員の感染対策への意識等について調査を実施し、効果的な介入方法を検討するとともに、大学および保健所とのネットワークを構築することで、各大学が他大学での好事例を取り入れながら、主体性をもって感染症対策を講じていけるように支援する必要がある。</p>
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査をもとに、学生や職員の感染症対策の意識や理解度についての実態を明らかにする。</li> <li>・平常時から大学保健管理部門と保健所とのネットワークを構築し、健康危機発生時に大学が保健所と連携し適切に対応できる。</li> <li>・大学同士の継続的なネットワークを構築し、好事例や困難事例を共有し、自身の大学に合うように対策を検討する。</li> </ul>
事業内容	<p>①実態調査の実施（アンケート調査やヒアリング調査）</p> <p>②大学保健管理部門と保健所とのネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学保健管理部門と保健所、また、大学保健管理部門担当者同士が随時相談が行えるシステムづくり（メーリングリストの作成）</li> <li>・大学生及び大学職員の健康課題について検討できる場の開催（1回）</li> </ul> <p>③普及啓発の実施（感染症週報の作成やエイズ普及啓発、自殺防止対策等）</p>
評価	<p>【大学保健管理部門への実態調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内15大学で講じている感染対策や工夫点、学生や職員の感染対策への意識等について調査を実施した。</li> <li>・感染症の知識や対策に関する調査結果では、半数以上の大学で学生や教職員からの相談対応で難しさや悩みを抱えていた。そして、多くの大学で「ガイドラインを参考にする」、「大学内教職員同士で検討する」等、学内で解決していることが明らかになった。</li> </ul> <p>【大学保健管理部門と保健所とのネットワーク構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学保健管理部門と保健所のメーリングリストを作成し、運用を始めた。各大学から感染症対策を踏まえた卒業式や入学式の対応についてなど共有、相談し合っ対応している。</li> <li>・大学および保健所とのネットワークの一步となる大学連携推進会議を開催した。今後も管内大学への感染症対策を支援していく必要性から、次年度も引き続き、大学保健管理部門との情報共有等を目的に大学連携推進会議を開催することとする。</li> </ul> <p>【普及啓発の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症週報では、保健所から各大学の保健管理部門に毎週情報提供した。また、エイズ普及啓発月間や自殺防止対策など健康づくりの強化月間の時には、大学保健管理部門向けにチラシやリーフレット設置を依頼し普及啓発を行った。</li> </ul>
問合せ先	<p>多摩府中保健所 保健対策課 感染症対策担当</p> <p>電話 042-362-2334</p> <p>ファクシミリ 042-362-1938</p> <p>E-mail S0000348@section.metro.tokyo.jp</p>

## 1 大学連携推進事業のイメージ

- (1) 事業がめざすこと
- ・平常時から迅速に保健所と大学間が感染症対策等について共有できるよう、大学間のネットワーク構築をする。
- (2) 対象
- ・大学内にある保健管理センターや診療所などの大学保健管理部門



北多摩南部

### (3) 事業スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①実態調査	実態調査 (アンケート・ヒアリング)		アンケート集計・分析					報告書の作成				
②ネットワーク	★メーリングリスト作成・共有					メーリングリストを活用した情報共有						
③普及啓発 情報発信	エイズ普及啓発			自殺防止強化月間		ピンクリボンキャンペーン		エイズ普及啓発		女性の健康週間 自殺防止強化月間		
	大学連携推進会議											

## 2 事業実績

### (1) 実態調査の実施 (アンケート調査やヒアリング調査)

#### 【目的】

当保健所管内の大学 15 校 (16 キャンパス) における健康危機管理体制の現状を把握し、保健管理部門の特徴や課題を明らかにする。

#### 【調査期間】

令和 4 年 5 月 23 日から令和 4 年 7 月 31 日

#### 【調査対象】

管内 (武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、小金井市、狛江市) に所在する大学 15 校 (16 キャンパス)

#### 【調査方法】

訪問及び郵送にて自記式質問調査用紙を配布し、郵送及びメールにて調査用紙を回収。

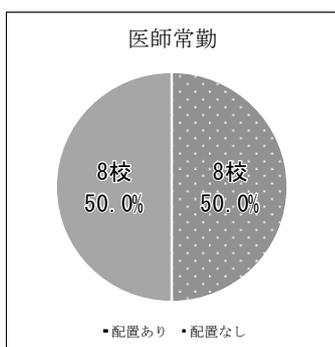
#### 【回答状況】

15 校 (16 キャンパス) が回答 (回答率 100.0%)

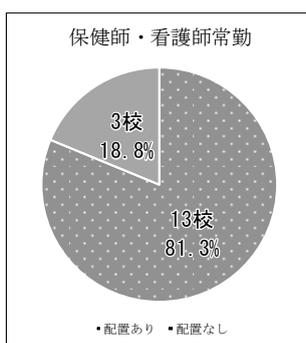
【調査結果】

○管内大学の概要

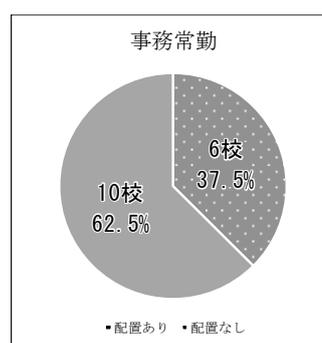
所在市	大学	学 生 (人)	常勤教 職 員 (人)	常勤保健管理部門(再掲)			非常勤 教職員 (人)	非常勤保健管理部門(再掲)		
				医 師 (人)	保 健 師 看 護 師 (人)	事 務 (人)		医 師 (人)	保 健 師 看 護 師 (人)	事 務 (人)
武蔵野市	A	7,600	650	1	3	3	420	2	2	
	B	6,400	280			2	360	1	1	
	C	1,568	192			1	89	1		
	D	124	16	3	1	3	11	1		
三鷹市	E	5,000	250				40	7	2	2
	F	1,570	3,000	8	1	3	250			
	G	3,100	420			2	370	1	1	1
	H	450	61			1	70			
	I	73	27				24	1		
府中市	J	6,153	658	2	1		410	4	4	1
	K	4,500	400	1	1	1	600	2		
調布市	L	4,819	521	2	1	1	314			
	M	2,000	150			3	200	3	1	3
	N	1,000	不明			2	不明		2	
	O	350	66	2	2		93			
小金井市	P	4,375	824	2	2		不明	4	1	1



n=16



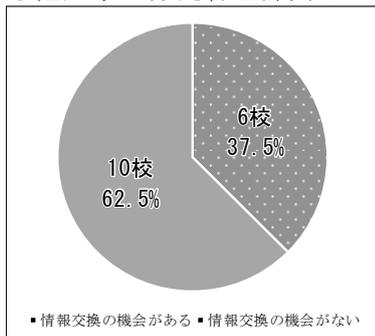
n=16



n=16

大学保健管理部門の教職員では、看護職を中心に配属されており、感染症対策の知識や経験等関係なく、感染症対策が行われている。また、大学保健管理部門の少人数の職員で学生や教職員の健康づくりに対応しなければならないことが明らかになった。

○他大学の保健管理部門との情報交換する機会について



n=16

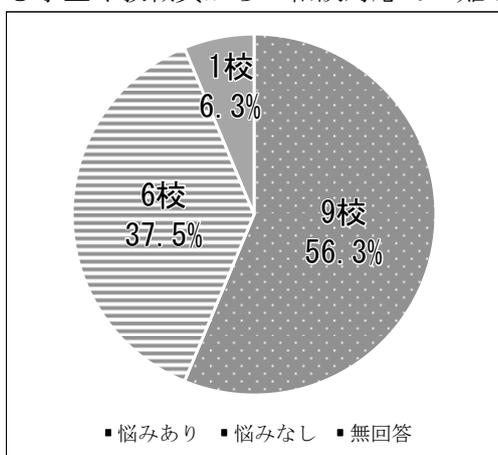
開催頻度	回答数	割合	開催に至った経緯	回答数	割合
年1回	4/6校	(66.7%)	単位互換をしているため	3/6校	(50.0%)
年2回	1/6校	(16.7%)	学校法人が同じ	1/6校	(16.7%)
未記入	1/6校	(16.7%)	私立医科大学看護系事務長会に加盟	1/6校	(16.7%)
			カトリック系大学で交流	1/6校	(16.7%)

n=6

n=6

他大学との情報交換の機会について、「機会がある」と回答した大学は、6校（37.5%）で、半数以下で、「単位互換をしているため」、「学校法人が同じ」などで、既存のつながりを活用していた。一方で、半数以上の大学では、他大学への相談や情報交換する機会がないことが明らかになった。

○学生や教職員からの相談対応での難しさや悩みについて



n=16

マンパワーの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健センター常勤スタッフが一人のため、感染者が多い時は負担が大きい。</li> <li>部署の人数が少ないので業務がひっ迫</li> </ul>	3/9校 (33.3%)
対応への困難感	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染者数が多く、状況も多種多様なため個別の状況把握がかなり困難</li> <li>濃厚接触者等の聞き取りやその後の対応が煩雑</li> <li>知識としてはあるが、行動が伴っていない。</li> </ul>	3/9校 (33.3%)
情報伝達の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員が保健センターと異なる指示を出す。</li> <li>感染者や濃厚接触者が正確な行動歴を報告しない。連絡がつかない。</li> </ul>	2/9校 (22.2%)
情報収集の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドラインの変更に随時対応できない。</li> <li>対策情報の更新が早いので、最新情報を逃さないように注意が必要</li> </ul>	2/9校 (22.2%)

n=9

「難しさや悩みがある」と回答したのは半数以上の9校（56.3%）だった。相談対応での難しさや悩みに関する内容では、「保健センターの職員配置が少ない」、「感染者数が多く状況も多種多様のため、個別把握することが困難」等が挙げられた。

○学生や教職員からの相談対応での難しさや悩みへの対応方法について

課題や悩みの対応方法	回答数	割合
厚生労働省のガイドライン、該当活動の協会ガイドラインを参考にした	12/16校	(75.0%)
保健センターの教職員同士で検討した	10/16校	(62.5%)
多摩府中保健所に相談した	7/16校	(43.8%)
大学内の他部署と検討した	6/16校	(37.5%)
他大学に相談した	5/16校	(31.3%)
その他	3/16校	(18.8%)

n=16

課題や悩みを感じた時の対応は、「厚生労働省のガイドライン、該当活動の協会ガイドラインを参考にした」12校（75.0%）、「保健センターの教職員同士で検討した」10校（62.5%）、「多摩府中保健所に相談した」7校（43.8%）の順に多かった。「他大学に相談した」は5校（31.3%）であった。感染症対策について課題や悩みを感じたときは、「ガイドラインを参考にする」、「大学内教職員同士で検討する」等、学内で解決している大学が多いことが明らかになった。他大学や保健所等の外部の機関に相談できるような大学保健管理部門と保健所とのネットワーク構築の必要性があった。

※詳細は『令和4年度 大学保健管理部門連携推進事業 健康危機管理体制に関するアンケート報告書』参照

(2) 大学保健管理部門と保健所とのネットワーク構築

○メーリングリストの作成

【大学間での情報共有】

令和4年12月	大学内での医薬品設置の有無について
令和5年1月	感染症対策を踏まえた卒業式や入学式の対応について
令和5年2月	学生健診後のフォローについて

○大学連携推進会議

平常時から大学保健管理部門と保健所とのネットワークを構築し、健康危機発生時に大学が保健所と連携し適切に対応できるように、大学保健管理部門とのネットワークづくりを目的に大学連携推進会議を開催した。

日時：令和4年11月29日（火曜日） 10時から12時
場所：多摩府中保健所
出席者：14大学の医師や看護師等の健康管理担当者や保健管理センター長等28名
内容：管内の新型コロナウイルス感染症患者数及び相談件数と対応経過、大学保健管理部門へのアンケート結果の報告
意見交換：学内での新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者の特定や感染症対策を踏まえた大学入学試験の対応、体調不良を訴える外国人留学生への対応
会議後の意見：参加者からは、「顔の見える機会となり、他大学と連絡先を交換することができてよかった。」、「他大学の感染症対策の取組を聞いて良かった。」等の感想をいただいた。



(3) 普及啓発の実施

【保健所からの情報発信】

日時	内容
令和4年9月	メーリングリストの作成、共有 自殺対策強化月間
令和4年10月	ピンクリボンキャンペーン
令和4年12月	東京都エイズ予防月間
令和5年2月	女性の健康週間
令和5年3月	自殺対策強化月間

【感染症週報】

※詳細は『多摩府中保健所 感染症週報』参照

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/tamafuchu/kansen/syuhou.html>

### 3 まとめ

---

今後も、多摩府中保健所では、平常時から大学保健管理部門と保健所とのネットワークを強化し、健康危機発生時に大学が保健所と連携し適切に対応できることを目標に関係機関と連携を図りながら感染症対策の推進に取り組んでいく。